

地 理

注 意

1. 問題は全部で7ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

- 1 気候に関する次の文を読み、文中の空欄A～Qに入れるべき語句を答えよ。なおPおよびQは海流の名称である。

気候を構成する大気のままざまな物理量や現象を〔 A 〕と呼ぶ。その主要なものとして気温、降水量、〔 B 〕があり、これらは「三大〔 A 〕」と総称されることもある。またこの他にも日照時間や湿度などがある。〔 A 〕の地理的な分布を左右する諸要因を〔 C 〕というが、一般に、緯度、高度、隔海度といった地球上での位置に関係する条件や、海流、海陸分布、土地利用などがこれに該当する。隔海度を例にとると、これが大きい場合は〔 D 〕性気候を示し、小さい場合は〔 E 〕性気候を示す。最暖月と最寒月の月平均気温の差を気温の〔 F 〕というが、〔 D 〕性気候は気温の〔 F 〕が比較的大きく、降水量や雲量は小さい。

図表による気候特性の表現方法のひとつに〔 G 〕がある。これは、横軸に月を、縦軸に気温と降水量をとって、気温を折れ線グラフ、降水量を棒グラフで示したものである。このほか、〔 H 〕グラフは、直交座標の横軸に降水量、縦軸に気温をとって、月ごとの降水量と平均気温を点で示し、月の順に点を結ぶことによって気候の特徴を表現したものである。

気候は、地球の長い歴史の中で絶えず変化してきた。そのうち最近の約200万年間は、氷期と〔 I 〕が交互に繰り返されてきた。最も新しい氷期は約1万～1万2千年前に終わり、現在は〔 I 〕にあると考えられている。このような長期的な変化に比べ、短期的な変化現象として異常気象がある。太平洋の中部から東部にかけての赤道付近の海面水温が平年に比べて高くなる〔 J 〕現象は、数年に一度発生し、世界的な異常気象の原因のひとつとなっている。また気候への人為的な影響としては地球温暖化が懸念されているが、このほかにも、人口が集中し自然状態とは異なる環境にある都市では〔 K 〕と呼ばれる特殊な気候がみられる。多量のエネルギー消費による人工排熱などにより都市部の気温がその周辺の郊外部に比べて異常な高温を示す状態を〔 L 〕現象と呼ぶが、これは〔 K 〕の具体例のひとつである。

一般には、世界の気温は低緯度ほど高く高緯度ほど低い。また標高が高いほど気温は低くなる傾向があるが、高度の増大にともなって気温が低下していく割合を、気温の〔 M 〕と呼んでいる。

世界の降水量の分布をみるとその多寡には地域的な偏りが大きく、特にモンスーンが強く影響している。また海洋などからの湿潤な大気が山の斜面を上昇すると、風上斜面に雨をもたらす場合がある。このような降雨を〔 N 〕性降雨という。また地表が暖められて発生した上昇気流による降雨は〔 O 〕性降雨と呼ばれるが、熱帯地域のスコールはこの例である。

いっぽう乾燥地域が形成される原因についてもいくつか考えられるが、海流の影響も無視できない。寒流が沿岸を流れている場合、大気は下層から冷やされ安定しているため〔 O 〕性降雨は発生しにくい。そのため、〔 P 〕海流に沿ったアタカマ砂漠や〔 Q 〕海流に沿ったナミブ砂漠のように、海岸砂漠が形成されることがある。

2 北欧にオランダを加えた6か国に関する次の文を読み、後の設問に答えよ。

ここで取り上げる6か国(アイスランド、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド)の国勢をまとめたのが表1である。国勢あ～かには、それぞれ6か国のうちのどれかが該当する。表中のEUは欧州連合のことで、1993年の(A)条約発効に伴い欧州共同体が改組されたものである。欧州連合の加盟国は増えているが、6か国のすべてが加盟しているわけではないことがわかる。なお、欧州連合の前身である欧州共同体は、欧州経済共同体に欧州石炭鉄鋼共同体と欧州原子力共同体を加えた組織であった。

表2に示した特徴ア～カについても表1と同様に、それぞれ6か国のどれかが該当している。なお表中のキルナで産出した鉄鉱石は、隣国の不凍港であるナルヴィクからも輸出される。
i)
ii)

6か国にある特徴的な都市を3つみていこう。北海は大西洋北東部漁場の一部となっていて漁業も盛んであるが、その根拠地のひとつにベルゲンがある。ここでは水産物の加工に加え造船・繊維・製紙の各工業も発達している。レイキャビクも漁業の根拠地で水産加工も盛んな港湾都市であるが、首都としての都市機能も有している。シェラン島東岸に位置するコペンハーゲンは北欧における商業・交通の中心地となっており、造船・機械・醸造・製陶などの工業が発達している。
iii)
iv)
v)

表1 6か国の国勢

	面積(万 km ²) (2007年)	人口(万人) (2009年)	EUへの加盟の有無 (2010年)
あ	3.7	1,659.2	有
い	4.3	547.0	有
う	10.3	32.3	無
え	32.4	481.2	無
お	33.8	532.6	有
か	44.1	924.9	有

注) グリーンランドとフェロー諸島の面積と人口についてはデンマークの値に含めない。

表2 6か国の特徴

特 徴	
ア	現地の言葉では「スオミ(湖と沼の国)」と呼ばれ、多くの湖と豊かな森林が特徴。
イ	北海油田の開発により石油輸出国となっている。
ウ	ユーラン(エトランド)半島の一部と周辺の島々を領土としてもつ。
エ	キルナ鉄鉱山を有する。
オ	火山活動が活発で、2010年春には噴火活動により欧州の航空網が混乱した。
カ	ユーロポートを有する。

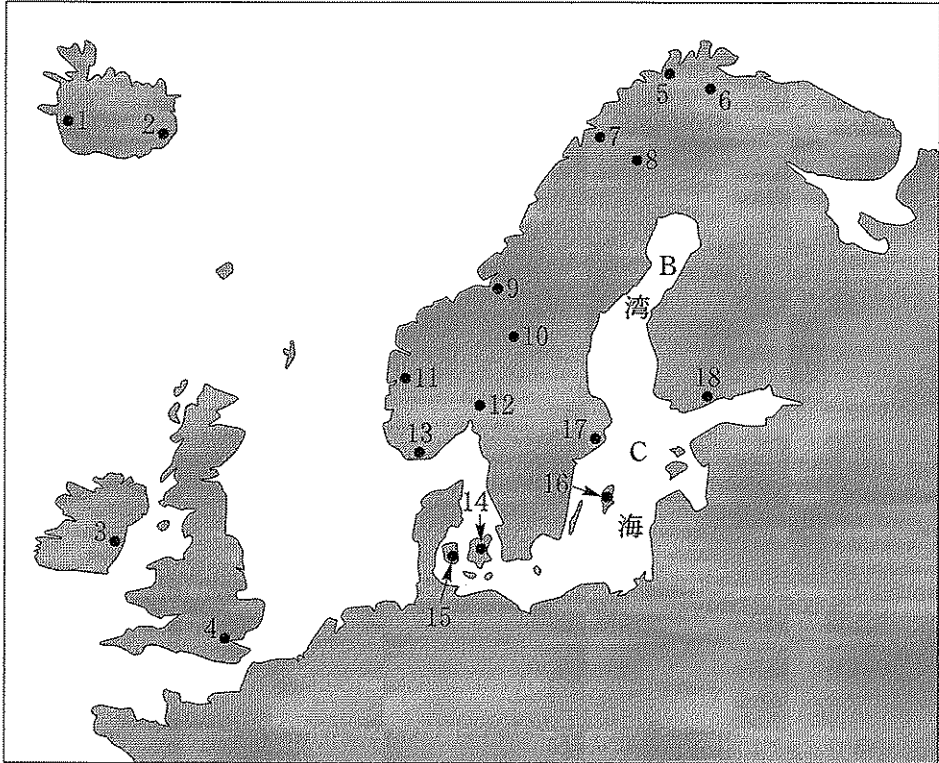
問1 文中の空欄Aに入れる条約名として最も適切なものを考え、解答欄に記入せよ。

問2 文中の波線部で示される組織名の略称をアルファベットの大きい文字で記せ。

問3 この6か国の国勢を表1のあ～か、特徴を表2のア～カからそれぞれ選び、解答欄に記入せよ。

問 4 文中の下線部 i)～v)の位置を下の地図の1～18から選び解答欄に記入せよ。

問 5 下の地図にあるB湾とC海の名称を答えよ。



3 次の文章を読んで以下の問いに答えよ。

製紙工業は、木材などの植物原料を物理的・化学的に処理して取り出される(1)を原料として、各種の紙を生産する工業である。原料となる植物はエゾマツなど温帯から冷帯気候の地域に見られる(2)葉樹が主流であったが、近年ではより温暖な気候の地域で見られる(3)葉樹も用いられるようになってきている。また(4)と呼ばれる製材くずなどを原料に用いる場合もある。製紙工場の立地は、紙までを木材から一貫して生産する場合には木材を得やすい場所になり、(1)を輸入して紙を生産する場合には消費地に近い場所に立地する傾向があることが知られている。¹⁾

わが国において製紙工業の盛んな都市としては、2004年に旧(5)市と旧伊予三島市を中心とした合併によって成立した愛媛県の四国中央市、駿河湾の最奥部・田子ノ浦に港湾を有する静岡県の(6)市、北海道の太平洋側で札幌からも100 km 足らずのところ positionする(7)市などが挙げられる。これらの都市はいずれも製紙工場の企業城下町として知られている。他の国では、アメリカ合衆国北西部・ワシントン州のピュージェット湾奥にある水陸航空交通の要地(8)、カナダでは北東部・(9)州に位置する首都オタワなどが知られている。近年では先進国に加えて、いくつかの新興国でも紙の生産量が増えてきている。また、紙はさまざまな用途に利用され、その消費量はその国の経済水準とも相関が強い。²⁾

問1 文中の(1)～(9)にあてはまる語句・地名をそれぞれ記せ。ただし、(2)・(3)はそれぞれ漢字1字で答えよ。

問2 製紙工場の立地が下線部1)のようになる理由を、それぞれの場合の「原料」と「製品」(=紙)の重量に着目して200字以内で答えよ。

問 3 下線部 2) に関連して、次の表は各国の 1975 年・2000 年・2008 年の紙の生産量(単位：1,000 トン)と 1 人あたり消費量(2008 年・単位：kg)ならびに(1)の輸出・輸入量(2007 年の上位 5 か国に含まれる国のみ・単位：1,000 トン)である。表中の ア～エ にあてはまる国名を次から選び記号で答えよ。

	1975 年	2000 年	2008 年	1 人あたり消費量	(1) 輸出量	(1) 輸入量
ア	47,499	85,832	79,952	265.9	6,197	6,163
イ	7,000	30,900	79,800	59.1		9,283
日本	13,601	31,828	30,627	238.6		
ドイツ*	6,493	18,182	22,842	247.4		5,477
ウ	10,066	20,771	15,756	208.8	10,619	
エ	1,688	7,188	9,334	44.6	6,577	

*ドイツの 1975 年の数値は旧東西ドイツの合計。

出典：『日本国勢図会 2010/2011』, 『データブック オブ・ザ・ワールド 2010』

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. インド | 2. カナダ | 3. 韓国 | 4. 中国 |
| 5. ポーランド | 6. ブラジル | 7. フランス | 8. アメリカ |

